

2025 年度

年報の発刊にあたって

代表理事 研究所長 鎌田 実



2025 年度の年報を発刊いたします。今回から、年報の構成や内容をリニューアルしました。

当年度は、年度当初に大規模な改修工事などを予定していたことから、赤字予算を編成しましたが、経費節減に努めた結果、4 期連続の黒字を達成することができました。

自動車業界では、バッテリー EV への一辺倒ではなく、マルチパスウェイの考えが浸透してきた状況です。また、SDV(ソフトウェア定義車両)など、DX(デジタルによる変革)の動きも活発であり、クルマのスマホ化ともいわれています。日本では、自動運転について、「2030 年度までに 1 万台の自動運転車の普及」という新たな目標が立てられました。一方、世界の自動車産業では、中国勢の躍進が目覚ましく、EV、自動運転技術を含め、その存在感が大きくなっています。

このような動きの中で、一般財団法人日本自動車研究所(JARI)は、産業界の協調領域において、より幅広い役割を担っていくことが求められ、産業界、官公庁から数多くの受託をいただくとともに、様々な事業を実施してきました。さらに 2025 年度は、第 5 次長期運営方針の最終年度として、これまでの活動の総仕上げを行うとともに、2026 年度からの次の 5 年間に向け、第 6 次長期運営方針の策定に取り組みました。第 5 次の約 5 年間の振り返りを行い、JARI の役割を再認識し、業界や社会から寄せられる期待を受け止め、第 6 次の中身を検討してまいりました。今回の策定は、企画管理部 経営・研究戦略 Gr を中心に、全部署参加のタスクフォースを構成し作業を行い、多くのステークホルダーの方々から貴重なご意見を賜り、それらを盛り込み完成させました。特に、「能動的な JARI になっていくこと」、「新たな協調領域でハブの機能を果たすこと」などを中心に据えました。そして、年度末まで皆がきちんと意識するように準備を進めて、2026 年 4 月から第 6 次長期運営方針に沿った活動を開始しました。

2025 年度の研究事業としては、長く続いた自動運転安全性評価の事業「SAKURA」および「RoAD to the L4」プロジェクトが最終年度となり、大きな成果を得て年度末に報告会を実施して終了しました。また GI 事業や SIP 事業の継続のほか、新たなモビリティに対する安全性評価など、これまでの取り組みに加え、新たな研究・試験事業も実施してまいりました。

城里テストセンターは 2025 年 10 月に開業 20 周年を迎え、路面改修と機能増強を行った高速周回路の完成とあわせ、記念式典を実施し、多くの方に来場いただきました。また JNX センターは設立 25 周年を迎え、「JNX25 年の軌跡とこれからの挑戦～「つながる」と「まもる」のこれから～」を記念イベントとして開催しました。

このような取り組みから、所外研究発表件数はコロナ前のレベルに戻りつつあり、また研究成果に対する表彰も数多くありました。

以上のような状況で 2025 年度を終えることができました。本年報をお読みいただいた皆様には、JARI の活動に一層のご理解を深めていただき、率直なご意見、ご感想を賜れば幸いです。

今後とも、皆様の変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。